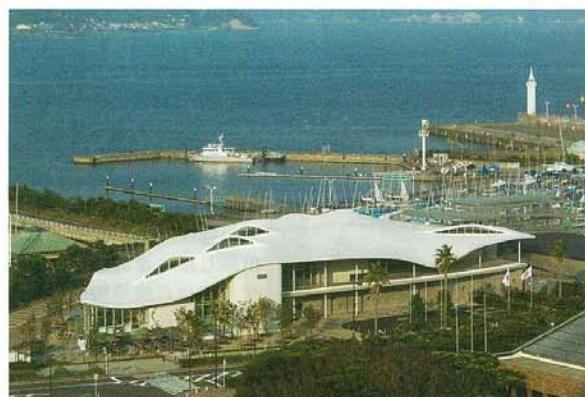


江の島・湘南港ヨットハウスの建設工事

「3次元」に挑んだ谷津建設



今年6月にオープンした湘南港ヨットハウス



「湘南の波とヨットの帆」をイメージした屋根



自然光が入る開口面も

スだった。
施工した谷津建設と設
計者のヘルム(横浜市)が
見事受賞した。

は、社員数50人の相模原
の中小ゼネコン。そんな
同社が受注したのが、江
の島・湘南港ヨットハウ
スだつた。

「最初はこれまでの建
設工事と思っていまし
た。しかし、設計図を精
査して工事をイメージす
るうちに頭を抱えまし
た」と谷津弘社長は振り
返る。

の美しい波をイメージし
た屋根は、複雑な3次元
曲線だつた。
そこには、同社がこれ
まで手掛けってきた建築と
は、まったく異なる世界
があつた。

体図を用いて工事をする2
次元だ。
しかし、3次元曲線が
示されている設計図を見
ても、イメージはおろか
建築模型さえ作る手段が
見つからない。

数ヶ月後、湘南デザイ
ンが完成させた「モデリ
ング」は、微妙な曲線も

「公共ヨットハーバー」
となつた。湘南の新しい
観光名所になることも期
待されている。

今回、谷津建設はモノ
づくり技術と建築技術を
融合させた、「やれば
できる」といいました。
D建築とも呼べる新し
いスタイルを確立した。

製造業にとっても、得
意技術が建築分野にも活
かせるという可能性を示
した。

谷津社長はいう。「ど
んな難工事でも『やれば
できる』と思いました。
連携により、建築分野で
も設計の自由度が広がり
ました。これからも製造
業とのコラボは続けてい
きたいと思っています」

「県建築コンクール」で優秀賞に 製造業と連携、可能性示す

■トリプル受賞

今年6月にオープンした湘南港
ヨットハウス(湘南港港湾管理事務所)。県がヨットの聖地・江の島に建設した。湘南の新たな観光
シンボルとして期待される同施設は、『湘南の波とヨットの帆』をイメー
ジして数多くの曲線を用いた
屋根が特徴だ。施工を担当した
のは谷津建設(相模原市中央区東
淵野辺、☎042-752-2038)。ただ、当初は難工事が予想された。波形の屋根は美しいデザ
インだが、「2次元の世界」である
従来の建築技術では難しい。大手
ゼネコンでさえ解決策が見いだせ
ない。そうしたなか、地域の中
小ゼネコンである谷津建設は、製
造業との異業種連携を進め活路を
見いだした。

スの建設工事だ。 もともと、1964年 の東京五輪会場となつた 旧ヨットハウスの老朽化 に伴う建て替えだった工 事だつた。

■一本の電話が

白を基調とした新ヨッ
トハウスは地上2階建て。
問題は20000平方メートルを
超える屋根だつた。湘南
専門だよ」ということに
なりました。とりあえず
つても、海から近いロケ
ーションも懸念材料とな
っていました。建設は「X」と「Y」の
世界。つまり平面図と立
ボ。今まで考えたこと

専門だよ」ということに
なりました。とりあえず
設計図を渡して3次元模
型の製作を頼みました
(谷津社長)。建設業と製造業のコラ
ボ。今まで考えたこと

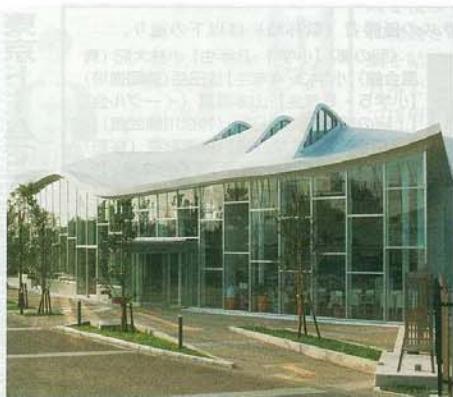
とはい、現場には風
速10mを超える強風が2
日に1度はやつてくる。
下準備から打設までの作
業を慎重に進めていた
ところだ。こうしてオープ
ンした湘南港ヨットハウスは、
波形の局部屋根がシンボ
ル。屋根には、自然光も
入る開口面がある。施設
に入ればパノラマの海が
広がり、自然の光と風が
感じられる。

湘南港ヨットハウスは、
茶・軽食コーナーもある
「公共ヨットハーバー」
となつた。湘南の新しい
観光名所になることも期
待されている。

公共ヨットハーバーとして利用可能



施設は「白」を基調にした2階建て



湘南の新しい観光名所としても期待される



公共ヨットハーバーとして利用可能